

第37代 北部方面總監 田浦陸将着任

方面總監要望事項

よく考えて、前へ!

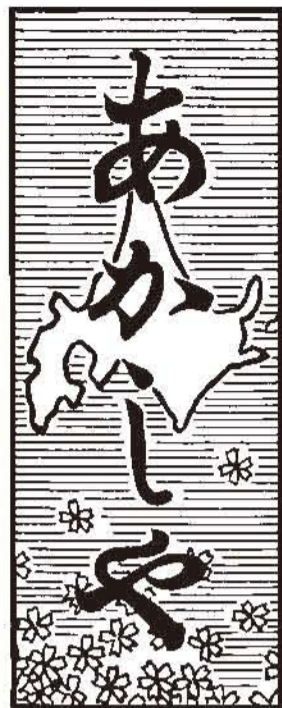
陸将 田浦 正人

昭和36年12月2日 生

本籍 長崎県

最終学歴 防衛大学校(機械工学科)第28期

- 昭和59年 3月 陸上自衛隊幹部候補生学校 入隊 (前川原)
- 平成3年 3月 第12戦車大隊第2中隊長 (相馬原)
- 平成14年12月 第3戦車大隊長 兼今津駐屯地司令 (今津)
- 平成16年 8月 イラク復興業務支援隊長 (サマーワ)
- 平成17年 4月 陸上幕僚監部防衛課業務計画班長 (市ヶ谷)
- 平成19年 4月 第72戦車連隊長 (北恵庭)
- 平成20年 8月 陸上幕僚監部運用支援課長 (市ヶ谷)
- 平成21年12月 中央即応集団副司令官 (朝霞)
- 平成23年 3月 福島原発対処現地調整所長 (Jビレッジ)
- 平成23年 8月 陸上自衛隊幹部候補生学校長 (前川原)
- 平成25年12月 北部方面總監部幕僚長 (札幌)
- 平成27年 8月 第7師団長 (東千歳)
- 平成29年 8月 第37代 北部方面總監 (札幌)



第738号

平成29年9月17日

方面總監要望事項

よく考えて、前へ!

陸上自衛隊
北部方面隊広報紙
発行：北部方面總監部広報室

北部方面隊
ホームページ

<http://www.mod.go.jp/gsd/f/nae>



儀じようを受ける總監

平成29年8月8日付をもって、第37代北部方面總監として、田浦正人陸将に着任した。

田浦總監は、真駒内駐屯地で殉職者慰霊碑に献花した後、札幌駐屯地へ移動し、總監部庁舎前において第18普通科連隊第2中隊三田村3尉の指揮する儀じよう隊の儀じようを受け、着任式に向かった。

駐屯地体育館で行われた着任式では、各部隊長を前に「歴代總監をはじめ諸先輩方が、心血を注いで育て上げられた、歴史と伝統ある北部方面隊は、現在我が国が置かれている安全保障環境のもと、今迄以上に陸上自衛隊において最も強く最も頼もしい方面隊でなければならぬ」とし、「更に『よく考えて、前へ!』を要望事項として、問題の本質をよく考えて常に前向きな姿勢で臨むように訓示した。

北部方面隊は、田浦總監の指揮・統率の下、陸上自衛隊において最も強く最も頼もしい方面隊として、使命を自覚しつづけて、錬磨・即応し、地域との連携を強化して、任務完了に邁進する所存である。

着任の辞 (全文)

この度、我が国最大規模の方面隊である北部方面隊の總監を拝命し、大きな喜びを感じることも、その重責に身の引き締まる思いである。

歴代總監をはじめ諸先輩方が、心血を注いで育て上げられた、歴史と伝統ある北部方面隊は、現在我が国が置かれている安全保障環境のもと、今迄以上に陸上自衛隊において最も強く最も頼もしい方面隊でなければならぬ。

着任にあたり、前總監の要望事項である「使命の自覚」「錬磨即応」及び「地域との連携」を職務遂行の三本柱として踏襲した上で、要望事項は一点「よく考えて、前へ!」である。

諸官承知の通り、北部方面隊は北海道の防衛・警備、災害派遣等を任務の基本としている。また、国内における防衛・警備、災害派遣等の事態発生に際しては、陸上自衛隊最大の勢力として、他方面隊を増援するとともに、国外における国際平和協力活動等に関する期待されているように、北部方面隊は、戦略的に運用される陸上自衛隊の「最後の砦」とも言える役割を担っている。

さらに、道内に広大な演習場を保有する等、訓練環境に恵まれていることから、陸上自衛隊の能力向上に資する基盤「道場」の役割を有するとともに、その前提となる自衛隊に対する地域の信頼も極めて高い方面隊と言える。まさに、北部方面隊は、陸上自衛隊において最も強く最も頼もしい方面隊であらねばならないというところを、我々は深く認識すべきである。

さて、世の中には、変化に応じて変えるべき事とどんなに世の中が変わろうとも変えてはならない事がある。「最も強く最も頼もしい北部方面隊」であり続けるためには、変えるべきは変え、守るべきは守ることが、必要と考える。その際、目の前の問題が、どうしてこうなっているのか、問題の本質は何かを「よく考えて」変えるべきか否か、また、どのように変えるべきかを決心しなければならぬ。また、決心の際のキーワードは、「前へ!」である。常に前向きな姿勢で物事を考えなければ、満足な結果を得ることはできない。前向きであれば、

自ずと改革する勇氣も湧き出てくるものである。「最も強く最も頼もしい北部方面隊を自指して、諸官一人一人に、『よく考えて、前へ!』の実践を要望するものである。

古典に、「志なきは、轡なき馬の如し」とあるが、これは、志がなければ、轡のない馬のように、どこに向かっているかわからない状態になってしまうということである。

諸官と共に高い志を掲げ、この伝統溢れる北部方面隊の手綱を共に持つていこうではないか。

最後に、歴代總監及び隊員諸官の築いてきた良き伝統を、より発展・充実させ、北部方面隊全員で「よく考えて、前へ!」前進できる如く、職務に邁進することを誓い、着任の辞とする。



着任式



記者会見

第36代北部方面総監 山崎陸将

第36代陸上幕僚長へ



離任式後の記念撮影

8月4日、札幌駐屯地において、第36代北部方面総監山崎陸将の離任式が行われた。

山崎総監は、平成28年7月着任以来、北部方面隊総合戦術演習、方面隊指揮所演習の実施をはじめ、北海道総合防災訓練・原子力防災訓練への参加、HTC事前検証・演習場定期整備等による北海道の道場化推進、第3施設団新編のほか、南スーダンへの部隊派遣、台風被害及び鳥インフルエンザ発生に伴う災害派遣、また、27年ぶりに開催された冬季アジア札幌大会、IPCノルディックスキー札幌大会等の部外行事へ積極的に協力する等、北海道の安心・安全、民生の安定に大きく寄与した。また、就任間部外協力団体等との連携を重視し、防衛講話の積極的な実施、意見交換会、懇親会等への精力的な参加により、良好な関係を構築した。

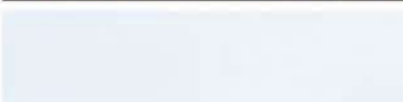
離任式において、「先人の築き上げた輝かしい伝統を引き継ぎ、陸上自衛隊の最大勢力を誇り、陸上自衛隊の戦い方の継承者・将来の戦い方の創造者であり、陸上自衛隊の基軸である方面隊の指揮官として、諸官とともに勤務できたことは私の誇りであり生涯の宝であります。国境を接する地において、極寒の冬季に於いて、北部方面隊総合戦術演習・HTC検証・部隊実戦・駐屯地の初度視察の場において、国家国民の、そして道民の負託に応えるため、隊員一人一人が「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努める」との、自衛官としての強い使命感を堅持し、各級指揮官を核心に強固な団結、厳正な規律、旺盛な士気を保持し、自らの任務遂行能力向上に向け、黙々と職務を遂行する諸官に接し、創隊以来脈々と続く「我らここに



駐屯地隊員に見送られる山崎陸将

励みて国安らかなりの精神を受け継ぎ、精強な部隊・隊員を見る思いがしました。これまで私を支えてくれた隷下の師団長・旅団長はじめ各級指揮官、隊員一人一人に心からの感謝の意を表した」と訓示し、総監部をはじめ札幌駐屯地所在部隊隊員、隷下全部隊長に見送られ、駐屯地を後にした。

約1年1ヶ月の間、北部方面隊を指揮・統率してきた山崎陸将は、8月8日付で、第36代陸上幕僚長へ就任し、引き続き陸上自衛隊の育成に尽力する。



部外協力団体等との連携



日米共同訓練合同開始式

日米同盟の抑止力・対処力を強化 国内における米海兵隊との実動訓練

第11旅団（旅団長竹本将補）は、8月10日から28日までの間、北海道大演習場、矢白別演習場において、国内における米海兵隊との実動訓練（「J-ザンヴァイパー」）を実施した。

本訓練は、「陸上自衛隊及び米海兵隊の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、日米共同による諸職種共同作戦を実施する場合における相互連携要領を、北海道の良好な訓練基盤を活用して、実行動により訓練し、更なる連携強化及び戦術技量の向上を図るとともに、即応機動する陸上自衛隊の構築に資する」ことを目的に実施され、日米同盟全体の抑止力及び対処力の更なる強化を図った。

陸上自衛隊からは、第11旅団の第28普通科連隊、第11特科隊等、約1300名が参加し、米海兵隊からは、第3海兵師団第4海兵連隊の1コ大隊、第12海兵連隊（砲兵）の1コ大隊等、約2000名が参加した。また、道内では初となるMV-22（オスプレイ）が参加し、空中機動等を実施した。

訓練は、機能別訓練と総合訓練に区分して実施し、機能別訓練では、空中機動、第一線救護、特殊武器防護、市街地戦闘、障害処理等が実施された。更に、矢白別演習場において、日米共同特科実射訓練が実施され、日米同時弾着射撃等の連携要領について演練した。

総合訓練では、一連の状況下で日米共同による攻撃戦闘を実施した。参加した隊員は、日米同盟強化の一翼を担う訓練に参加したことを誇りに思い、日米共同の重要性を再認識するとともに、相互連携の要領について練度向上し、それぞれの任務を完遂した。



CH-47による患者輸送



MV-22による空中機動



下車突撃する日米隊員



日米共同による特科実射



方面隊オピニオンリーダーの皆様



初公開の水陸両用車 (AAV)

実戦さながらの迫力に感動！！ 平成29年度富士総合火力演習研修

8月28日、北海道防衛議員連盟、自衛隊協力会、オピニオンリーダー、各部隊協力団体等約50名の方々が、東富士演習場で開催された平成29年度富士総合火力演習を研修した。

当日は、天候にも恵まれ、早朝より本演習を楽しみに集まった大勢の観客で会場は埋め尽くされた。

演習は、2部構成で実施され、前段演習では、今年度初めて公開した水陸両用車及び機動戦闘

車の展示があり、後段演習では、「統合運用による島嶼部における攻撃への対応」として総合的な演習が実施された。

研修に参加した方々からは、「今年初めて研修に参加したが、その迫力に感動した」「防衛力の重要性を再認識した」「この体験を皆に伝えたい」などの所見をいただいた。また、演習の合間に、写真を撮ったり、自衛隊グッズを購入したりと、演習を十分に堪能していただいた。



大迫力の実弾射撃

陸・海・空 自衛隊の魅力をアピール！！

ノーザンスピリット'17

統合広報イベント

北部方面隊は、8月6日から8日までの間、陸上自衛隊東千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地、苫小牧西港において、ノーザンスピリット'17を実施した。

本行事は、陸・海・空自衛隊の概要を総合的に紹介し、自衛隊に対する理解を促進して、志願者数の拡大と有為な人材の確保に資することを目的として、各地方協力本部から、募集対象の学生等合計約280名が参加した。

陸上自衛隊東千歳駐屯地では、90式戦車の体験試乗、航空自衛隊千歳基地では、陸上自衛隊UH-1J及び航空自衛隊C-147Jの体験搭乗、また苫小牧西港において、海上自衛隊の護衛艦「おなみ」の体験航海等を実施した。

また、研修間、陸・海・空自衛隊との懇談の場が設定され、参加者は、現役自衛官の話に真剣に耳を傾け、活発に質問する等、大変興味がある様子であった。

全ての日程を終えた参加者からは「自衛隊の魅力が身近で感じ、より親近感が芽生えました」「自衛隊を受験する気持ちが強くなりました」「たくさんの友人もでき、楽しみながら自衛隊を知ることができました」「将来は絶対自衛官になります」などの嬉しい意見が寄せられ、今年度の人隊成果に期待がかかる。



護衛艦おなみ体験航海



90式戦車体験試乗



CH-47J 体験搭乗

北の駐屯地 その歩み 第35回 安平駐屯地



本部庁舎正面玄関

安平駐屯地は、安平町を縦断する国道234号線から直線距離で約500メートル、JR室蘭本線安平駅から徒歩約15分、東千歳演習場東側に隣接した小高い山間に位置した駐屯地である。

駐屯地が所在する安平町は、昭和8年に日本で初めて本格的にチーズの生産を始めた国産チーズ発祥の町でもある旧早来町と、古くから鉄道の町として発展してきた旧追分町とが、平成18年に合併して誕生した町である。町のさまじまなどこ

安平駐屯地は、昭和30年1月に旧早来町に設置され、同年2月に第308弾薬中隊(島松)が移駐して北海道地区補給処安平弾薬支処として発足した。

その後、新隊舎、体育館などが建設され、平成10年に北海道補給処安平弾薬支処に改編し、今年度162周年を迎える歴史



うまかまつり広報・募集活動

と伝統のある駐屯地である。駐屯地の所在部隊は、北海道補給処安平弾薬支処、第313基地通信中隊安平派遣隊、第122地区警務隊安平連絡班等であり、人員約140名が在籍し、駐屯地全隊員の顔と名前が一致する小規模駐屯地である。また、近傍に早来分屯地を有している。

安平駐屯地は、隊員一人丸となって安平町の各種イベントに積極的な協力活動を実施しており、特に安平町の一大イベントである「うまかまつり」では、札幌地本苫小牧出張所と連携し、自衛隊の広報及び募集活動を実施し、自衛隊をPRするとともに、地元住民との親睦を深め、「地域から信頼される駐屯地」を目指している。

また、安平弾薬支処は、被支援部隊に対し、何時も必要となる物資を迅速かつ整備済な弾薬支援ができてくるよう、支処長の要望事項である「成すべきことを成せ」をモットーに、これからも任務に邁進していく。

と伝統のある駐屯地である。駐屯地の所在部隊は、北海道補給処安平弾薬支処、第313基地通信中隊安平派遣隊、第122地区警務隊安平連絡班等であり、人員約140名が在籍し、駐屯地全隊員の顔と名前が一致する小規模駐屯地である。また、近傍に早来分屯地を有している。

安平駐屯地は、隊員一人丸となって安平町の各種イベントに積極的な協力活動を実施しており、特に安平町の一大イベントである「うまかまつり」では、札幌地本苫小牧出張所と連携し、自衛隊の広報及び募集活動を実施し、自衛隊をPRするとともに、地元住民との親睦を深め、「地域から信頼される駐屯地」を目指している。

また、安平弾薬支処は、被支援部隊に対し、何時も必要となる物資を迅速かつ整備済な弾薬支援ができてくるよう、支処長の要望事項である「成すべきことを成せ」をモットーに、これからも任務に邁進していく。



今月の一枝

9月に入り、陽が落ちるのが日に日に早くなり、朝夕の気温も少し肌寒く感じる様になってきた。秋の訪れを感じると同時に、夏の終わりを実感している。夏の暑い時期に大輪の花を咲かせていた向日葵もどこか寂しげである。しかし、楽しかった夏が終わったからといって、ため息は必要ない。これから北海道は、恵みの秋、実りの秋、食欲の秋に突入する。秋には秋の楽しみ方がある。北海道の秋と言えばやはり鮭である。「秋アジ」と呼ばれ、北海道を代表する秋の味覚である。先日、休日を利用してイクラをたっぷり抱えた形の良い鮭を釣った。当然家人に喜ばれた。これも北海道ならではの夫婦円満の秘訣である。全く釣れずに逆効果の時もあるが、自然が相手でありそれをもまた楽しい。これから北海道は、あつわって行くだろう。山が白く変わるその前に、ほんのちよつと仕事の手を休め、家族や仲間とひと時の秋を楽しんでみては如何だろうか？

編集後記

9月に入り、陽が落ちるのが日に日に早くなり、朝夕の気温も少し肌寒く感じる様になってきた。秋の訪れを感じると同時に、夏の終わりを実感している。夏の暑い時期に大輪の花を咲かせていた向日葵もどこか寂しげである。しかし、楽しかった夏が終わったからといって、ため息は必要ない。これから北海道は、恵みの秋、実りの秋、食欲の秋に突入する。秋には秋の楽しみ方がある。北海道の秋と言えばやはり鮭である。「秋アジ」と呼ばれ、北海道を代表する秋の味覚である。先日、休日を利用してイクラをたっぷり抱えた形の良い鮭を釣った。当然家人に喜ばれた。これも北海道ならではの夫婦円満の秘訣である。全く釣れずに逆効果の時もあるが、自然が相手でありそれをもまた楽しい。これから北海道は、あつわって行くだろう。山が白く変わるその前に、ほんのちよつと仕事の手を休め、家族や仲間とひと時の秋を楽しんでみては如何だろうか？